想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

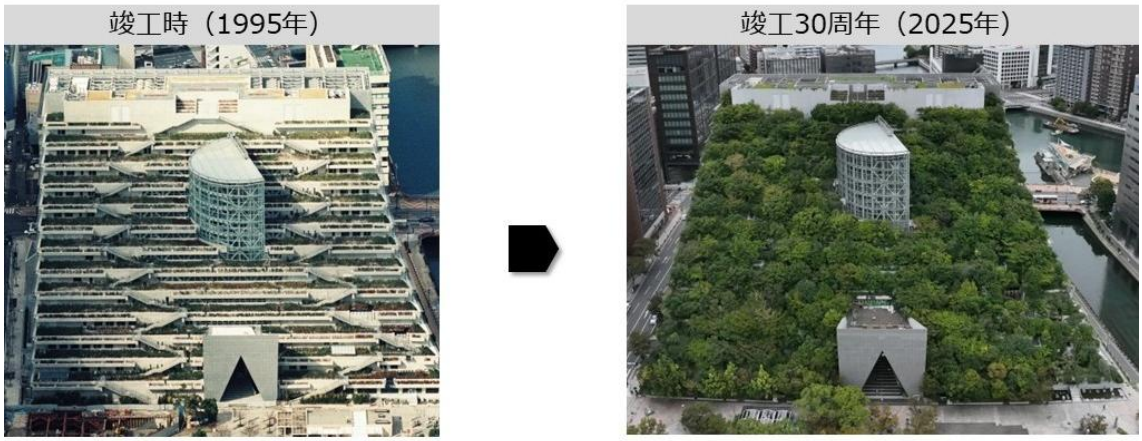
News Release

2026 年 11 月 26 日
株式会社竹中工務店

竣工 30 周年「アクロス福岡」の樹林が都市の自然資本として機能
日本有数の大規模緑化建築の樹林構造と環境価値を初めて総合検証

竹中工務店（社長：丁野成人）は、「アクロス福岡」（福岡市中央区）が 1995 年の竣工から 30 周年を迎えたのを機に、建物上に形成された樹林構造と、それが都市にもたらす環境価値を初めて総合検証しました。アクロス福岡は、国内有数の大規模緑化建築として、設計・施工・維持管理に携わる多くの関係者によって 30 年間育まれ、現在では建物全体を樹林が覆うまでに成長しています。

調査の結果、樹林では 174.2t-CO_2 の炭素固定に加え、31 種の鳥類の確認、建物躯体への熱流入の 90%以上の低減、テナント利用者の 85.9%が地域景観への好影響を実感など、炭素固定・生物多様性・熱環境緩和・社会価値など、多面的な環境価値が確認され、その価値は建物にとどまらず周辺地域にも広がることが示されました。



西日本新聞社提供

竣工時（1995 年）と 30 年後（2025 年）の外観比較

■背景

気候変動や生物多様性の損失への対応が求められる中、ネイチャーポジティブの実現に向け、建築分野でも自然との共生が重要なテーマとなっています。

アクロス福岡は、約 5,000 ㎡の階段状緑地を有する緑化建築として 1995 年に竣工。30 年間の継続的な維持管理により、現在では建物全体を覆う樹林へと成長し、"アクロス山"と呼ばれるまでになりました。建物上の緑地が 30 年をかけて森のような樹林へと成長した事例は、世界的に見ても貴重です。今回、この 30 年間で育まれた樹林が発揮している環境価値を検証しました。

■調査概要

調査期間：2025 年 2 月～11 月
調査内容：緑地構造調査、生物調査、熱環境調査、社会（アンケート）調査
評価方法：各調査結果を統合し、総合的に環境価値を評価

■調査結果

（1）緑地構造 ～建物上で樹木が健全に生育

ドローンによる写真測量・レーザー計測、毎木調査（※1）により、30 年育まれた樹林構造を定量化

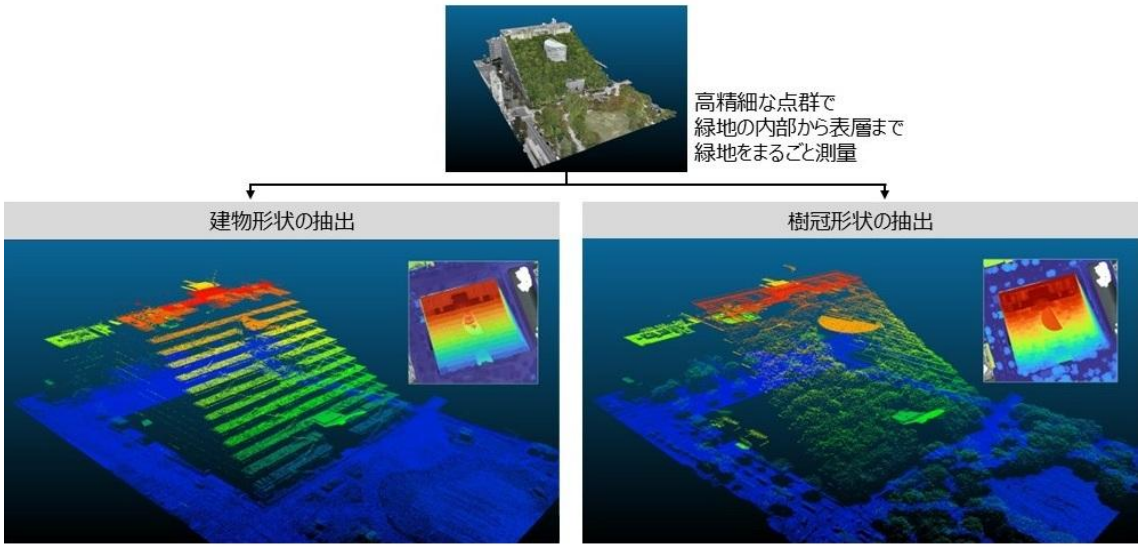
樹木本数　　：　8,020 本

植物種類　　：　159 種類（竣工時の 76 種類から約 2 倍に増加）

平均樹冠高さ：　6.5m

蓄積炭素量　：　174.2t-CO_2（樹木および土壌による炭素固定量）

※1 敷地内の樹木を一本一本測定し、種類、太さ（胸高直径）、高さなどを調べる森林調査



点群解析による緑地構造の可視化

（2）生物多様性 ～都市に生物の生息・利用環境を創出

ルートセンサス調査（※2）と赤外線カメラ調査で確認

確認鳥類種数：　31 種

主な野鳥　　：　猛禽類のハイタカ、樹林性鳥類のヤマガラ・シロハラなど

※2 決まったルートを歩きながら、その周辺に生息する生き物を観察し、生息数や分布を調べる調査方法

（3）熱環境緩和効果 ～植物の蒸散・日射遮蔽などによる暑熱環境改善

アクロス福岡樹林内外と一般ビル屋上での環境計測による比較調査

建物躯体への熱流入：90%以上低減

都市への熱放出　　：日射熱に由来する熱放出量を約 65%低減

（4）社会的価値 ～地域景観への好影響などを実感

テナント利用者 561 名へのアンケート調査：

建物への親しみ　：86.5%が「親しみや愛着を感じている」と回答

地域景観への影響：85.9%が「地域景観に良い影響を与えている」と回答

周辺地域の居住者もしくは勤務者 202 名へのアンケート調査：
建物への親しみ　：84.1%が「親しみや愛着を感じている」と回答
地域景観への影響：87.6%が「地域景観に良い影響を与えている」と回答

■調査結果まとめ

本調査により、30 年間の維持管理を通じて育まれた建物上の樹林が、以下の多面的な環境価値を生み出していることが確認されました。

・炭素固定　：都市に樹木や土壌有機物として炭素を蓄積
・生物多様性：都市に生物の生息・利用環境を形成
・熱環境改善：都市の熱環境を緩和
・社会価値　：都市景観の質向上と利用者の愛着形成

これは、緑化建築が都市の自然資本として機能し得ることを示す成果であり、ネイチャーポジティブ実現に向けた建築・都市づくりを考える上で、重要な知見となります。

■アクロス福岡の関係者、調査体制

【建築プロジェクト関係者】
建築主　：第一生命保険（株）、福岡県
運営　　：（株）第一ビルディング、エイ・エフ・ビル管理（株）（～2026.3）
設計　　：（株）日本設計、（株）竹中工務店
植栽設計：プランタゴ、《植栽基盤》（株）イケガミ
施工　　：竹中・鹿島・清水・九州・高松・戸田 建設共同企業体
植栽施工：内山緑地建設（株）
維持管理：《施設》（株）竹中工務店、《植栽》内山緑地建設（株）
　　《植栽監修》プランタゴ、Takebayashi Landscape Architects（2024.4～）
【環境調査体制】
実施機関：（株）竹中工務店
協力機関：エイ・エフ・ビル管理（株）、（株）第一ビルディング、内山緑地建設（株）、（株）イケガミ、（公財）都市緑化機構　環境緑化技術研究会、（株）地域環境計画、アスキム（株）、武蔵野大学、千葉大学

■今後の展開

竹中工務店は、アクロス福岡の継続的な建物保守・利活用提案を行うとともに、30 年の実績から得られた知見を活かし、ネイチャーポジティブな建築ソリューションの確立・展開を推進します。また、2027 年の「GREEN× EXPO 2027」への出展などを通じ、建築・まちづくりの立場から長期的視点に基づく気候変動対応と生物多様性保全の両立を、国内外に向けて発信していきます。

■参考

→大規模緑化技術と検証－アクロス福岡－
→アクロス福岡から、アクロス“山”へ～山になった建物の 30 年とその環境価値～